

福岡県教育委員会では、児童生徒に国語、算数・数学における基礎基本を含む活用力（基礎的・基本的な知識・技能及び思考力、判断力、表現力等）を育むとともに、地域間の学力向上の取組の差を解消することを目的として、平成25年度から小学校5年生～中学校3年生向けの国語、算数・数学の教材集を作成・配布しました。各学校においては、教材集を授業等で繰り返し活用し、取組の改善が図られてきました。

また、平成28年度からは、学力向上に係る検証改善サイクルを小学校中学年から一層計画的に推進するために、小学校4年生向けの教材集を新たに作成してきました。

この度、小学校学習指導要領（平成29年告示）の全面実施を受けて、教材集の改訂を行いました。

各学校では、授業の中だけでなく、朝の学習の時間や家庭学習等における補充・発展問題として活用していただいているところですが、更に、各問題の特質に応じて、先生方の授業づくりや校内研修の際の参考資料としても活用され、基礎基本を含む活用力の向上に役立てていただくことを願います。

令和4年3月

福岡県教育委員会

# 小学校 国語 四

基礎基本を含む活用力を育成する教材集  
～未来への挑戦～

追補版

令和四年三月改訂

## 目次

1	1 単位時間程度で活用する教材（大問）	
1	話し合いで考えをまとめたり、意見を出したりしよう。 （話すこと・聞くこと）	30
2	調べたことをまとめて、ほうくくする文章を書こう。 （書くこと）	32
3	だん落の関係を考えながら読もう。 （読むこと）	34
2	2 短い時間で活用する教材（小問）	
1	調べたことを発表したり、発表者に質問したりしよう。 （話すこと・聞くこと）	38
2	自分の考えをはっきり伝える文章を書こう。 （書くこと）	39
3	行動や会話から登場人物の気持ちを読み取ろう。 （読むこと）	40
4	ことわざの意味を調べて、正しく使おう。 （我が国の言語文化に関する事項）	41
5	ことごとこと言葉やつなぎ言葉を使って、分かりやすい文章を書こう。 （言葉の特徴や使い方にに関する事項）	42
6	ローマ字を正しく使おう。 （言葉の特徴や使い方にに関する事項）	43

大問1～3の出題の趣旨、正答

36  
～  
37

小問1～6の正答

第四学年【めあて】話し合いで考えをまとめたり、意見を出したりしよう。

( ) (組) ( ) (番 名前) ( )

Ⅰ 内村さんの学年では、十月に秋の遠足に行きます。そこで、各学級で「遠足のしおり」を作ることになりました。次は、「遠足のしおり」の表紙の絵について、どのような絵にするのかを話し合った【話し合いの一部】と、書記の山谷さんが黒板に書いた【話し合いのまとめの一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。(「、」や「。」は字数に数えます。)

【話し合いの一部】

内村	「遠足のしおり」の表紙の絵について、各はんの意見を発表してもらいます。その絵がよい理由も発表してください。では、一ぱんからお願ひします。
中田	一ぱんでは、船の絵がよいという意見にまとまりました。秋の遠足では、海が見える公園に行きます。だから、海と関係のある絵がよいと思うからです。
大森	二はんは、もみじの絵がよいということになりました。秋の遠足ですから、秋らしい絵がよいと思うからです。ところで、表紙の絵はだれがかくのでしょうか。
内村	だれが絵をかくかは後で決めます。まずは何をかくかを話し合ひましょう。三ぱんの意見をお願いします。
川上	三ぱんでも、一ぱんと同じように船の絵がよいという意見が出ました。でも、サッカーの絵がよいという意見もありました。はんのメンバーの半分以上が、この意見にさんせいしています。
内村	A
川上	公園ではスポーツができるそうですね。だから、みんなで楽しくサッカーをしている絵にしたら、遠足の楽しさが伝わると思うからです。

長島

四はんでは、もみじの絵がよいという意見もありました。鳥の絵という意見もありました。もみじのほうの理由は二はんと同じなので、鳥の絵についての意見と理由を表しますね。

〽 (話し合いが続く) 〽

【話し合いのまとめの一部】

「遠足のしおり」の表紙の絵

■ 船 一ぱん・三ぱん

・ 海が見える公園だから。  
・ 海に関係のある絵だから。

■ もみじ 二はん・四はん  
・ 秋らしい絵にしたいから。

■ サッカー 三ぱん

・ 公園でスポーツができるから。  
・ B

〽 (まとめが続く) 〽



第四学年【めあて】調べたことをまとめて、ほうこくする文章を書こう。

( ) (組) ( ) (番 名前) ( )

2 山本さんのはんでは、社会の学習で、消ぼう車について調べています。次の【ほうこく文の一部】は、調べたことをまとめて、学級  
のみんなに伝えるために書いたものです。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。(「、」や「。」は字数に数えます。)

【ほうこく文の一部】

○消ぼう車について調べたこと

一 色

日本の消ぼう車は赤色です。外国から取り入れた消ぼう車やポンプが赤だったため、日本でも赤にしたと考えられています。赤は目立つ色なので、人々の注意を引くのにぴったりです。

フランスやイギリスなどの消ぼう車も赤です。一方、アメリカでは、消ぼうしよによって色がちがいます。

二 サイレン

消ぼう車のサイレンの音には二種類しゅるいあります。「ウー・カン・カン・カン」は、 A  ときの音です。一方、「ウー・ウー・ウー」は、 B  ときの音です。かねの音が入るかどうかで、消ぼう車が何のために出動したのかが分かります。

三 消ぼう車の種類

消ぼう車には、ポンプ車や化学車、はしご車など、さまざまな種類があります。

ポンプ車と化学車は、どちらも火を消すための車ですが、ちがいがあります。ポンプ車は、水を使った消火活動を行うときに出勤し、ポンプですいこんだ水を放出します。一方、化学車は、

C

〜 (ほうこく文が続く) 。

問1 【ほうこく文の一部】の  部分は、山本さんが次の文章について先生に助言をもらって書き直したものです。

日本の消ぼう車は赤色で、外国から取り入れた消ぼう車やポンプが赤だったため、日本でも赤にしたと考えられています。赤は目立つ色なので、人々の注意を引くのにぴったりです。  
フランスやイギリスなどの消ぼう車も赤ですが、アメリカでは、消ぼうしよによって色がちがいます。

先生の助言としてふさわしいものを、あとのアからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましよう。

- ア 主語がない文に主語を書き加えたほうがよい。
- イ みんなによびかけるような書き方にしたほうがよい。
- ウ たとえを使って分かりやすく書いたほうがよい。
- エ 長い一文を二文に分けて書いたほうがよい。

問2 山本さんたちは、消ぼうしよ見学のときにもらった次の【資

料】に書かれていることをもとに、【ほうこく文の一部】の「二 サイレン」と「三 消ぼうし車の種類」を書いていきます。あとの問いに答えましょう。

【資料】

みなさんは、消ぼうし車のサイレンの音にちがいがあることを知っていますか。

「ウー・カン・カン・カン」は、消ぼうし車が火さいで出動する場合の音です。「カン・カン・カン」というかねの音が、火事が起こったことを知らせます。消ぼうし車が火さいで出動する場合は、サイレンの音が「ウー・ウー・ウー」だけになります。たとえば、交通事故での救助活動や救急隊の手伝い（てつだ）のときはこの音です。ちなみに、救急車のサイレンは「ピーポー」です。

さて、サイレンの音にちがいがあるように、消ぼうし車本体にもちがいがあります。

たとえば、消火活動を行う車には、ポンプ車と化学車の二種類があります。ポンプ車は、水を使った消火活動を行うときに出勤します。ポンプで川や池などの水をすいこみ、長いホースでその水を放出します。ポンプ車に水そうがついていることもあります。一方、化学車は、水を使った消火活動ができないときに出勤します。車のタンクに入っているあわやこなを火に向けて放出します。油や電気が原いんの火さいで、化学車が火を大活やくします。

【ほうこく文の一部】の「二 サイレン」のAとBに入る言葉を、【資料】の中からそれぞれ十三字と十五字で書きぬきましょう。

A		B	

問3 【ほうこく文の一部】の「三 消ぼうし車の種類」のCに入る言葉を、次の〈やくそく〉に合わせて書きましょう。

- 〈やくそく〉
- 【資料】の中の言葉を使って書くこと。
- 【ほうこく文の一部】の——部と同じ形で書くこと。
- 四十字から五十字で書くこと。


第四学年「めあて」だん落の関係を考えながら読もう。

( ) (組) ( ) (番号前) ( )

3 町田さんは、かんづめがほぞん食であることを知って、あるぎ問をもちました。町田さんは、その答えを見つげるために、次の【読み物】を読み、分かったことを【ふせん】にメモしました。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。「、」や「。」は字数に数えます。

【読み物】 ①から⑩はだん落番号です。

- ① みせて買ったトマトやさんまを、そのまま置いておいたら、どうなるでしょう。くさって、食べられなくなってしまうですね。
- ② ところが、トマトやさんまをかんづめにする、長い間くさることがありません。かんを開けなければ、三年くらいはおいしく食べることができます。食べ物を、長い間おいしくほぞんできるといふことは、かんづめの持ちようの一つです。
- ③ かんづめが長い間くさらないのは、かんづめの中に、物をくさらせる細きんがないからです。
- ④ 多くのかんづめは、次のようにして作られます。
- ⑤ まず、材料に付いているよごれなどをあらって、きれいにします。皮や種など、食べられないところは取りのぞきます。肉や魚など調理が必要なものは、むしたり、焼いたり、にたりします。それから、かんにつめて、塩や油、味付けの液などを、いっしょに入れます。
- ⑥ 次に、かんの中の空気をぬいて、すき間ができないように、しっかりと固くふたをします。
- ⑦ そして、かんのまま、外から熱します。野菜や肉、魚などのかんづめは、百度以上の温度で、時間をかけて熱します。果物のかんづめは、果物本来の味やかおりをたもつために、温度を百度以下にして、短い時間、熱します。
- ⑧ 最後に水でかんづめを冷やせば、できあがりです。

9 食べ物がくさる原因は、おもに細きんです。細きんはとても小さいので、目で見ることはできません。でも、空気中に飛んだり、わたしたちの手や洋服、つくえやかばんなど、あちらこちらに付いています。からだの中に、すみついていられるものもいます。このような細きんの中に、食べ物をくさらせる細きんがいるのです。

10 かんづめを作るときに、しっかりとふたをするのは、細きんがかんの中に入らないようにするためです。そして、かんを熱するのは、中の細きんを殺して活動を止めるためです。このような作り方をするので、かんづめの中は、細きんがないじょうたになりすす。だから、かんづめの中の食べ物は、長い間くさらないのです。

「なぜ? どうして? 身近なぎもん 4年生」による。

【ふせん①】

細きんが食べ物をくさらせる。細きんはどこにでもいて、その中に、食べ物をくさらせる細きんがいる。

【ふせん②】

かんづめの中を細きんがないじょうたにする方法。  
・しっかりとふたをする。 ・かんを熱する。

問1 【ふせん①】はどのだん落についてのメモですか。□1から□10の  
だん落番号の中から一つえらんで、その番号を書きましよう。

--

問2 町田さんは、【ふせん】を整理しながら【まとめ】を書いて  
います。あとの(1)と(2)の問いに答えましよう。

【まとめ】

ぼくが、ぎ問に思った「A」ということについて、次の  
ことが分かった。

かんづめを作るときは、しっかりとふたをして、かんを熱する。  
こうすることで、かんづめの中は、食べ物をくさらせる細きんが  
いないじょうたいになる。だから、かんづめの中の食べ物は長い  
間ほぞんできるのだ。

(1) 【まとめ】のAには、どのような言葉が入ると考えられま  
すか。ふさわしい言葉を、【ふせん②】で注目しただん落の言葉  
を使って、二十字から三十字で書きましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(2) 町田さんは、【まとめ】の□部について、かんの熱し方のく  
わしい説明を書き加えることにしました。このとき、町田さんは、  
【読み物】のどのだん落の言葉を使えばよいですか。□1から□10の  
だん落番号の中から一つえらんで、その番号を書きましよう。

--

問3 町田さんは、ぎ問の答えを見つけた後、かんづめの作り方に  
ついてもつと知りたくなり、かんづめ工場の見学に参加しまし  
た。次の【感想文】は、工場見学を終えた町田さんが書いたも  
のです。

【感想文】

先日、ぼくは、魚のかんづめを作っている工場を見学しました。  
ぼくが読んだ本には、材料をかんにつめる前に、□と書  
かれていました。これらの作業を行うのは、機械ではなく人です  
た。このことを知って、ぼくはおどろきました。

かんづめの材料となるのはマグロです。工場では、たくさんの  
人たちが、マグロのよこれをこすり取ったり、皮などを取りのぞ  
いたりしていました。

かんづめの材料は、ていねいな手作業によって作られます。お  
いしさのひみつが分かって感動しました。

この【感想文】の□に当てはまる言葉を、〈やくそく〉に合  
わせて書きましよう。

〈やくそく〉

○ 【読み物】の□だん落から□だん落までの中から、ふさわしい  
だん落を一つえらび、その中の言葉を使うこと。

○ 三十字以上五十字以内でまとめること。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大問1～3の出題の趣旨、正答

Ⅰ P 30・31

1 出題の趣旨

学級で話し合いを行う場合、司会、書記などの役割を担う児童は、話し合いを円滑に進めるための工夫が必要である。また、話し合いに参加する児童は、理由を挙げながら筋道立てて意見を述べる必要がある。そこで、本問では、司会、書記の役割を理解するとともに、メモを参考にしながら意見をまとめる問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

エ

○ 解説

司会として話し合いを円滑に進行する力を見る問題である。「だれが絵をかくか」ではなく、「何をかくか」が優先であると述べていることに着目して正答を選ぶ。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと オ)

問2

○ 正答

(例) サッカーの絵がよいと思う理由はどんなことですか。(二十四字)

○ 解説

司会として話し合いを円滑に進行する力を見る問題である。川上さんは、「サッカーの絵がよい」という意見を述べているが、その理由を述べていない。そのため、内村さんは、理由を述べるように川上さんを促す必要がある。冒頭の内村さんの発言にある「その絵がよい理由も発表してください。」の言葉を使って書く。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと オ)

問3

○ 正答

遠足の楽しさが伝わる

○ 解説

書記として発言者の意見や理由を的確にまとめる力を見る問題で

ある。川上さんの発言のうち、理由を述べている箇所に着目し、「から。」につながるように書く。「十字」という字数制限にも注意させたい。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと エ)

問4

○ 正答

(例) つばさを広げて空を飛んでいる鳥の絵が、「みんなで、大きくはばたこう」というクラスの目標を表しているからです。

(五十四字)

○ 解説

要点が書かれたメモを参考にしながら適切な発言をする力を見る問題である。「やくそく」に従って、「つばさ」「目標」「表しているからです。」を全て入れて書く。また、「クラスの目標」が「みんな」で、大きくはばたこう」であると分かるように発言するにはどうすればよいかを考えさせたい。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと ア・イ)

Ⅱ P 32・33

1 出題の趣旨

報告する文章を書く場合、収集した資料を効果的に使って文章を書くことが求められる。また、書いた文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることも大切である。そこで、本問では、調べたことをまとめたり、他者の意見をふまえて修正したりする問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

エ

○ 解説

他者の意見をふまえて修正する力を見る問題である。修正前の文章の第一段落の第一文と第二段落の文は、修正後は二文になっている。このことに注目して正答を選ぶ。(第3学年及び第4学年 書くこと エ)

問2

○ 正答

A 消ぼう車が火さいいで出動する(十三字)

B 消ぼう車が火さい以外で出動する(十五字)

○ 解説

条件に合わせて資料から必要な情報を取り出す力を見る問題である。消防車のサイレンの音について書かれているのは、【資料】の第二段落である。「ウー・カン・カン・カン」と「ウー・ウー・ウー」というそれぞれの音に注目し、「くとき」につながる部分をそれぞれ制限字数内で抜き出す。(第3学年及び第4学年 書くこと ア)

問3

○ 正答

(例) 水を使った消火活動ができないときに出動し、車のタンクに入っているあわやこなを火に向けて放出します。(四十八字)

○ 解説

資料から必要な情報を取り出し、条件に合わせて書く力を見る問題である。化学車について書かれているのは、【資料】の第四段落で「一方」の後である。この部分を「やくそく」に合わせてまとめる。【ほうこく文の一部】の「部」は、「どういうときに出動するか」の後に「何を放出するか」が書かれているので、この記述の順番に着目する。また、敬体で書かれた一文であることにも注意させたい。(第3学年及び第4学年 書くこと ア・ウ)

③ P 34・35

1 出題の趣旨

疑問や課題を解決すること等の目的に応じて文章を読む力が求められる。その際、段落相互の關係に着目して読むことが大切である。そこで、本問では、段落ごとの要点を整理し、關係を考へる問いを中心とした問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

⑨

○ 解説

段落ごとの要点を捉える力を見る問題である。【ふせん①】には「細きんはどこにでもいて」とあるので、「(細きんは)あちらこちらに付いています」と書かれている⑨段落のメモである。(第3学年及び第4学年 読むこと ア・ウ)

問2

○ 正答

(1) (例) かんづめにした食べ物は、どうして長い間くさらないのか。(二十七字)

○ 解説

ふせんに書かれた内容を關係付けながら、疑問を捉える力を見る問題である。「【ふせん②】で注目しただん落の言葉を使って」という条件があるため、⑩段落の言葉を使って答える。【まとめ】の最終文「だから、かんづめの中の食べ物には長い間ほぞんでくるのだ。」と同じ内容を⑩段落から探し、最終文「だから、かんづめの中の食べ物は、長い間くさらないのです。」に注目する。この文を「くか」という疑問形にすることに注意させたい。(第3学年及び第4学年 読むこと ア・ウ)

○ 解説

目的に応じて、段落の内容を押さえ、捉える問題である。かんの熱し方については、⑦段落で詳しく説明されている。(第3学年及び第4学年 読むこと ア)

問3

○ 正答

(例) よこれなどをあらってきれいにし、皮などの食べられないところを取りのぞく(二十六字)

○ 解説

資料の内容と自分の感想との關係を押さえて読む力を見る問題である。【感想文】の第三段落には「マグロのよこれをこすり取ったり、皮などを取りのぞいたりしていました」とあるので、これらの作業について書かれている⑤段落に注目する。この段落の第一文と第二文を、「やくそく」に合わせて、前後とのつながりを考へながらまとめる。(第3学年及び第4学年 読むこと ア・ウ)

第四学年「めあて」調べたことを発表したり、発表者に質問したりしよう。

( ) (組) ( ) (番号前) ( )

Ⅰ 小池さんは、理科の学習で育てているへちまについて発表しました。次の【小池さんの発表のはじめの部分】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【小池さんの発表のはじめの部分】

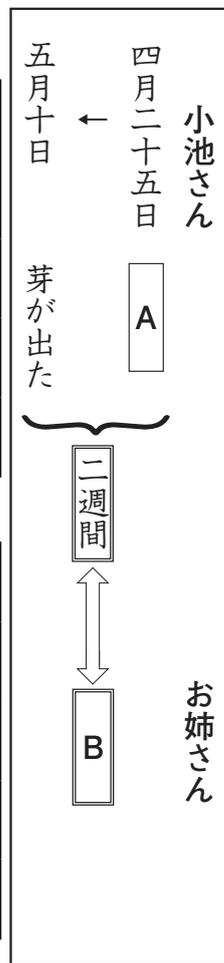
みなさんのへちまは、どのように育っていますか。  
 わたしがへちまの種をまいたのは、四月二十五日です。芽が出たのは五月十日なので、種をまいてから芽が出るまでに約二週間かかったことになりました。しかし、わたしの姉が去年へちまを育てたときには、種をまいてから一週間で芽が出たそうです。  
 同じようにへちまの種をまいたのに、わたしのときと姉のときで、芽が出るまでの日数がちがいました。これはどうしてでしょうか。ふしぎに思ったので、調べてみることにしました。  
 〽 (発表が続く) 〽

問1 小池さんは、発表の中でどのようなふうをしていますか。

- ア そのくふうとしてもっともふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。
- イ 思わずかしい言葉について、くわしく説明している。
- ウ たとえを使って、分かりやすく言いかえている。
- エ 聞き手が関心をもてるように、問いかけている。
- オ へちま以外の植物について話し、話題を広げている。

問2 田村さんは、【小池さんの発表のはじめの部分】を聞きながら、

メモを取りました。このメモの【A】と【B】にふさわしい言葉を、それぞれ五字以内で書きましょう。  
 【田村さんのメモ】



問3 山本さんは、小池さんの発表を最後まで聞いて、次の質問をしました。

小池さんの発表で、へちまの芽が出るまでの日数は気温によって変わると分かりました。ところで、芽が出た後の成長にも、気温は関係するのでしょうか。

この質問のねらいとしてもっともふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。

- ア 自分の考えが正しいかどうかをたしかめる。
- イ あいまいな言葉の意味をたしかめる。
- ウ 聞きのがしたことをもう一回聞く。
- エ 発表の中でふれられなかったことを聞く。



第四学年「めあて」行動や会話から登場人物の気持ちを読み取ろう。

( ) (組) ( ) (番号前) ( )

3 三上さんは、読書感想文を書くために、「きつねをつれて村祭り」という物語を読んでいます。次は、【物語の一部】と【三上さんのメモ】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。(「、」や「。」は字数に数えます。)

■物語のこれまでのあらすじ

子ぎつねのこうたは人間に化けて、おもちゃを売りに行く。ごんじいといっしょにお祭りへ出かけました。けれどもまだうまく化けられない。こうたは、顔だけがきつねのままです。きつねのお面をかぶっていた。こうたですが、村の人たちに本当はきつねであることが知られてしまい、にげ出していききました。

【物語の一部】

お祭りが終わって、お店をしまつて、ごんじいはとうげの道を帰ります。  
まがつてまがつて、七つ目のまがり角に来たとき――

「あんれ？」

急に車が、かるくなりました。

「ああつ、こうた……。」

「ごんじい、今日は楽しかったね。」

とうげまで来ると、いつの間にか、こうたはいなくなっていました。

「そうか、きつねとわかってしまったら、人間のおじいとは遊べないか……。」

ごんじいは、少し悲しそうな顔を見ると、売れのこりのお面や風車やたいこを取り出して、切りかぶの上におきました。

「ほれ、今日一日、わしのいいまごになってくれたお礼じゃよ。」

ごんじいは、車を引いて、山道を下りていききました。

テケテン テケテン テケテケ テン……

「おう、たたいておるわい。」

ごんじいは、何度も何度もとうげの方をふり返つてうなずきました。

「うんうん、こうた……。またいつか、会いたいのがう。」

(こわせ・たまみ「きつねをつれて村祭り」による。)

【三上さんのメモ】

ごんじいの行動や様子	ごんじいの気持ち
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A をした。</li> <li>・ お面などを切りかぶの上においた。</li> <li>・ 何度も何度もとうげの方をふり返つてうなずいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こうたと遊べなくてさみしい。</li> <li>・ こうたに B お礼をしたい。</li> <li>・ こうたにまた会いたい。</li> </ul>

問1 【三上さんのメモ】の A と B に当てはまる言葉を、

【物語の一部】からそれぞれ十字以内で書きぬきましょう。

A	B
10	10

問2 【物語の一部】――部について、三上さんはたいこの音を

るい音だと考えました。三上さんがこのように考えた理由を、【物語の一部】の中に書かれているこうたの言葉に注目して書きましょう。

第四学年【めあて】ことわざの意味を調べて、正しく使おう。

( ) (組) ( ) (番号前) ( )

4 大木さんは、ことわざの意味を辞書で調べて、【カード】を作っています。【カード】の  ア から  ウ に入ることわざの使い方の例としてもっともふさわしいものを、あとの1から3までのの中からそれぞれ一つえらんで、その番号を書きましょう。

【カード】

〔良薬は口に苦し〕

◆意 味…注意をすなおに受け入れることはむずかしいが、受け入れると自分のためになる。

◆使い方…  ア

ア 1 良薬は口に苦しと言うように、よいことはまよわずにすぐ行ったほうがよいが、あせてはいけないので落ち着いてやらなければいけない。

2 良薬は口に苦しと言うように、注意されて、すなおに反省するのはむずかしいが、自分のためになることなので実行したい。

3 良薬は口に苦しと言うように、とくいなことでもゆだんして、失敗することがあるが、そんなことがないよう、気をつけたい。

〔灯台下暗し〕

◆意 味…身近なことはかえって分かりにくい。

◆使い方…  イ

イ 1 三人で相談したら、よい考えがうかんだ。灯台下暗しだね。

2 失敗しないよう十分用心することが大事だ。灯台下暗しだね。

3 探していたノートが自分の部屋にあった。灯台下暗しだね。

〔ねこの手もかりたい〕

◆意 味…とてもいそがしくて、どんな手伝いでもほしい。

◆使い方…  ウ

ウ 1 部屋のかたづけがなかなか終わらなくてこまったな。ねこの手もかりたいよ。

2 物事は、とくいな人にまかせるのがいちばんだ。ねこの手もかりたいよ。

3 失敗してもあきらめずに何回でもまたがんばってみないとね。ねこの手もかりたいよ。

第四学年【めあて】「こそあど言葉やつなぎ言葉を使って、分かりやすい文章を書こう。」

( ) (組) ( ) (番 名前) ( )

5 次の【文章】は、飼育委員の山本さんが、ウサギ小屋の前のけいじ板にはるために書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】

飼育委員会からのお知らせ

学校のウサギ小屋には、ウサギの「マロン」が住んでいます。今年の九月から、新しいウサギがここに加わります。

② 新しいウサギは、はじめはおびえることもあるでしょうが、みなさんがやさしくすれば、すぐになじめるはずですよ。

③ 新しいウサギの名前はまだ決まっています。そこで、ウサギの名前を書き紙と紙を入れる箱を、しよく員室前に置きました。すてきな名前を思いついた人は、どんどんおうぼしてください。

問1 【文章】の——部①は、何を表していますか。【文章】の中から五字で書きぬきましょう。

-----
-----
-----
-----

問2

【文章】の——部②と——部③の文を、それぞれ二文に分けて書き直します。一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の、つなぎ言葉に続く七文字を書きましょう。つなぎ言葉には、( ) ( )の中の言葉を使います。

② (しかし)

新しいウサギは、  
すはらずです。

しかし、  
すはらずです。

③ (そのため)

新しいウサギの  
すにします。

そのため、  
すにします。

第四学年【めあて】ローマ字を正しく使おう。

6 ローマ字の読み書きについて、あとの問いに答えましょう。

問1 次の1と2の言葉を、例のように、ローマ字でていねいに書

きましょう。

(例) [ いぬ ] ⇒ inu

1 [ かざん ] ⇒ \_\_\_\_\_

2 [ はっけん ] ⇒ \_\_\_\_\_

問2 次の1と2のローマ字を、例のように、ひらがなでていねい

に書きましょう。

(例) inu ⇒ [ いぬ ]

1 kyakusen ⇒ [ \_\_\_\_\_ ]

2 hyappo ⇒ [ \_\_\_\_\_ ]

( )  
( ) 組 ( )  
( ) 番 名前 ( )  
( )

小問①～⑥の正答

【話すこと・聞くこと】

① 正答 P 38

問1 ウ

問2 A (例)種をまいた(五字)

B (例)一週間(三字)

問3 エ

【書くこと】

② 正答 P 39

問1 イ

問2 A 未来の子どもたちのためにきれいなまま残す

B 多くの人々に大南公園のことを知ってもらう

【読むこと】

③ 正答 P 40

問1 A 少し悲しそうな顔(八字)

B まごになってくれた(九字)

問2 (例)ごんじいといっしょにお祭りに行けて楽しかったから。

【我が国の言語文化に関する事項】

④ 正答 P 41

ア 2 イ 3 ウ 1

解説 ア 1は「善は急げ」の意味である。

3は「さるも木から落ちる」の意味である。

イ 1は「三人よればもんじゆの知恵」の意味である。

2は「転ばぬ先のつえ」の意味である。

ウ 2は「もちはもち屋」の意味である。

3は「七転び八起き」の意味である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

⑤ 正答 P 42

問1 ウサギ小屋

問2 ② もあるでしょう・みなさんがやさ

③ まっています・名前をみなさん

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

⑥ 正答 P 43

問1

1 kasan

2 hakken

問2

1 きゃくせん

2 ひゃっぱ